

ノシメトンボ

Sympetrum infuscatum

兵庫県：要調査

環境省：－

種の概要

腹長24～32mm、後翅長28～36mm程度で、羽根の先端に褐色部が存在する、やや大型のアカトンボ。秋になると、平地にあって日当たりがよく、水が大きく引いた池畔の草地や湿地に、上空から卵を落とすように産卵する。他の地方では水田で繁殖している例があるが、兵庫県ではあまり観察されていない。卵で越冬し翌春孵化、幼虫は短期間で成長を終え、6月下旬から羽化を始める。夏は樹林で過ごし、かなり標高の高いところまで移動する個体もある。



写真提供：青木典司

国内分布

北海道、本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、姫路市、明石市、洲本市、芦屋市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、西脇市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、丹波篠山市、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、加東市、たつの市、猪名川町、多可町、稲美町、市川町、神河町、太子町、香美町、新温泉町

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○	○			

特記事項

かつては普通に見られたトンボであるが、この10年間で発見例が著しく減少した。見つかっても個体数が2、3頭程度ということが多く、減少率だけを見るとBランク相当になったトンボである。既産地でも姿が見られなくなった例が多い。減少原因があまりはっきりしないため、現状をはっきりとさせるためさらなる調査が必要である。

保護上の留意点